

ABC認知症スケール

ここ1カ月の患者さんの様子について、
次の13個の質問にお答えください。

このスケールについて

- 医療従事者（医師、看護師、臨床心理士、保健師など）が介護者さんに次の13個の質問をします。
- 介護者さんは、患者さんの状態・状況について、次の質問と具体例を参考に9段階の中から最も近いものを選んでください。
- 具体例では、9段階のうちの5段階を文章で示していますが、文章で表現されている状態・状況の間の段階も選ぶことができます。
- 患者さんが実施されないようなことについて質問された場合は、もし患者さんが実施されたらどうなるか想定して回答してください。
- 医療従事者は、介護者さんの回答から患者さんの重症度を評価します。
- 医療従事者が介護者さんに質問をするときは、原則、患者さんは同席できませんのでご了承ください。

1. 患者さんが服を着替えるときの様子はどうですか？

具体例

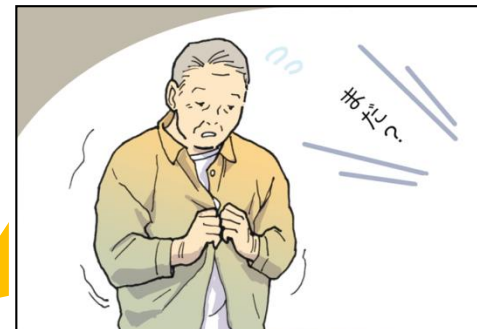
● 時間をかけずに、自分で正しく着脱衣ができる

● 時間がかかるが、自分で正しく着脱衣ができる

● 口頭指示があれば、自分で着脱衣ができる

● 着脱衣の一部を介護者が行う必要がある

● 着脱衣の全てを介護者が行う必要がある



2. 患者さんは日常生活動作をどれくらい自発的に行っていますか？

(たとえば、買物、リハビリ・デイサービス、歯磨き、髭剃り、化粧、整髪、起床など)

具体例

- 声掛けしなくても自らしている

-

- 時に声掛けが必要である

-

- 常に声掛けが必要である

-

- 声掛けしてもやろうとしない時がある

-

- 声掛けしても全くやらない



3. 患者さんが誰かに何かを伝えたいと思っているとき、どれくらい会話でそれを伝えることができますか？

具体例

● 会話に支障がない

●

● 複雑な会話ができない

●

● 具体的な欲求しか伝えられない

●

● 発語はあるが、会話が成り立たない

●

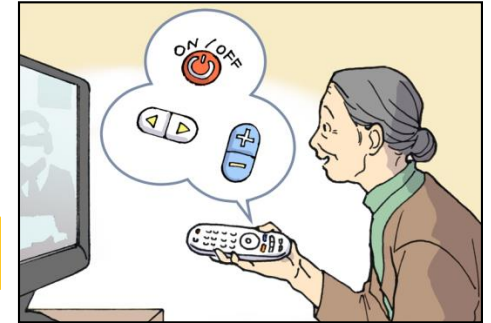
● 発語がなく、無言である



4. 患者さんがテレビやエアコンなどの電化製品を操作する場合の様子は どうですか？

具体例

- 自由に操作できる
-
- チャンネルの順送りなど普段している操作はできる
-
- 操作間違いが多いが、操作方法を教えれば使える
-
- リモコンを認識しているが、リモコンの使い方が全く分からない
-
- リモコンが何をするものか分からない



5. 患者さんは身近なものを置いた場所をどのように思い出すことができますか？

(たとえば、診察券、補聴器、保険証、財布、靴、帽子、メガネ、上着、家の鍵など)

具体例

- 忘れることはない

-

- たまに忘れることがあるが、考えることで思い出せる

-

- きっかけを与えれば自分で思い出すことがあるが、思い出せないこともある。

-

- 置いた場所を全く思い出せない

-

- 忘れたこと自体を認識していない



6. 患者さんは身の回りに起こった日常的な出来事をどれくらいの期間、覚えていますか？

(たとえば、通院、来客、買い物、外出、通話など)

具体例

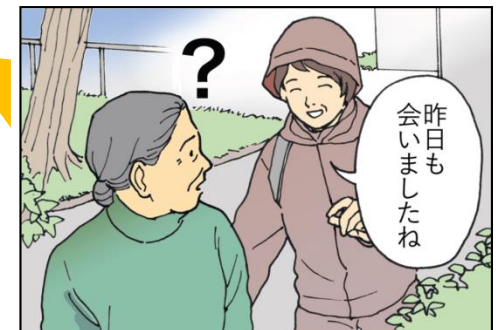
1週間前のことを覚えている

数日前のことは覚えているが、1週間前のことは覚えていない

昨日のことは覚えているが、数日前のことは覚えていない

半日前のことは覚えているが、昨日のことは覚えていない

まったく覚えてもらえない



7. 静かに座っていなければならない状況での様子はどうですか？

(たとえば、バスの中、電車の中、診察中など)

具体例

● 落ち着いて座っている

● 座ってられるが、そわそわした様子を見せる

● 突然立ち上がったたり、歩き回ったりするが、声掛けで落ち着く

● 何度かの声掛けで落ち着いても、すぐに落ち着きのない状態になる

● 常に落ち着きがなく、座ってられない



8. 患者さんの意に沿わないことがあったときの様子はどうですか？

具体例

● 変わらない

● 些細なことに対して、怒りっぽくなった

● 暴言を発し、粗暴な素振りをするようになった

● 身内に対しては、暴言を発したり、実際に暴力を振るうことがある

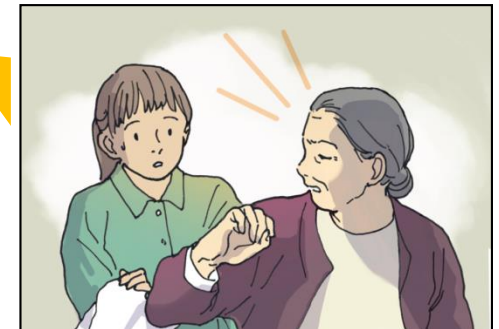
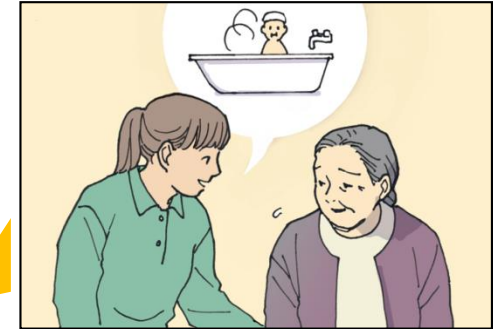
● 誰に対しても、暴言を発したり、実際に暴力を振るうことがある



9. 介護者さんが患者さんに何かをお願いした場合の様子はどうですか？ (たとえば、入浴・服薬・着脱衣・外出など)

具体例

- 素直に従う
-
- 少し嫌がるけれども、丁寧に説得すると従ってくれる
-
- 稀に拒絶する
-
- 時々拒絶する
-
- 常に拒絶する



10. 患者さんが服薬する場合、どれくらいの介助が必要ですか？

具体例

- 自分で正しく服薬できる

- 自分で用意して服薬できるが、
たまたに服薬し忘れることがある

- 2回に1回は服薬を忘れる

- 常に薬を手渡しすることが必要である

- 服薬し終わるまで介助・見守りが必要である



11. 患者さんが食事をするときに、どれくらいの介助が必要ですか？

具体例

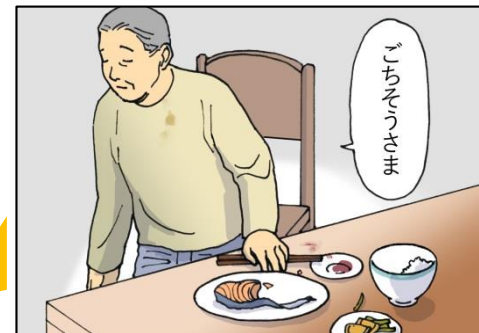
自分で食事を摂ることができ、食べこぼしなどはない

自分で食事を摂ることができるが、食べこぼしなどがある

食事の際に、見守りや声掛けが必要である

食べ物を口に持っていく事で、ようやく食べる

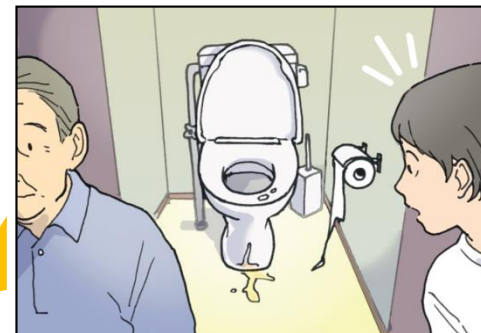
ほとんど食べない



12. 患者さんがトイレを使うときに、どれくらいの介助が必要ですか？

具体例

- トイレを自分で問題なく使える
-
- トイレを使えるが、時々トイレを汚してしまう
-
- 尿パット・オムツ・トイレへの誘導のいずれかが必要であるが、自分でトイレを使える
-
- オムツを着用している。介助があればトイレを使えるときもある。
-
- トイレは使用せず、常時オムツである。オムツの交換も常に介助が必要である。



13. 介護者さんは、患者さんをどれくらい看守する必要がありますか？

具体例

● 全く介護が要らない

● 1日1回様子を見ればよい

● 半日（3時間）程度なら安心して外出できる

● 30分程度も目が離せない。
(買い物などのための外出ができない)

● 常に目が離せない

